

T・Y（コアセッション 統計学 A）

① TA/SAをやってみようと思ったきっかけ

統計学に興味があったから。新しいことが面白いから。

② TA/SAに関連する活動で印象に残っている出来事

- ・ 質問待機の際に、質問者が来る時と来ない時の差がある。
- ・ 動画制作は難しい。
- ・ 業務に対するお金の支払いの基準が厳しい。

③ TA/SAを経験して変化したこと、成長できたこと

質問対応を基本的には担当していましたが、準備をしていないことに対して質問されることが多く、

それに対する的確に回答することが身に付いたことによって、頭の回転が格段に早くなったと実感しています。

このことは、実際に就職活動にも繋がったと考えており、面接ではほとんど落ちることはありませんでした。

④ TA/SAになってみようと思っている学生へのメッセージ

とりあえず、やってみるといいと思います。何事も経験だと思います。

SA 業務に関しては、質問対応以外にも動画を制作することもあるので、Youtuber の疑似体験が出来ます。

新しいことを始めるということは、それだけ新しい知見も増えます。

この経験は自分の思ってもいないようなところで、活かせる場面に出遭った時に有効に活用できるかもしれません。

⑤ 担当教員やTA/SA仲間へのメッセージ

頑張ってください。

M・Y（コアセッション ミクロ経済学B）

① TA/SA をやってみようと思ったきっかけ

成績優秀者として声をかけていただいたこと

② TA/SA に関する活動で印象に残っている出来事

質問者に「ありがとう」「分かりやすかった」などと言っていたこと

③ TA/SA を経験して変化したこと,成長できたこと

相手を想像して効率的に勉強できるようになりました。SAになるまでは、前提にされている知識などを可能な限り調べて理解することが絶対だと思っていましたが、質問者も自分も無限に時間があるわけではありません。あくまで目的は授業を理解することであり、そのために伝えるべきことは何か、ということをよく考えながら、ミクロBなら問題数や解答も充実した演習に取り組むことで、違った視点も得られ、迷走することが少なくなりました。今回の目的はSAでしたが、ゼミナールや仕事でも大切なことを学ぶことができたと思います。

④ TA/SA になってみようと思っている学生へのメッセージ

SAはもちろん一人ではなく、担当教員や同じSA、学習支援室の方々も協力してコアセッションを運営しています。そうした取り組みに参加できることは貴重な体験ですから、是非より良い授業のために、たくさん周りの方々と相談してみるとよいと思います。一緒に頑張りましょう。

⑤ 担当教員や TA/SA 仲間へのメッセージ

担当教員の井手先生にはSA関連だけでなく個人的な相談にも応じていただきました。

ありがとうございました。また機会があればぜひ協力させていただきたいです。

K・M（コアセッション 統計学 A）

① TA/SA をやってみようと思ったきっかけ

1 年生の時に統計学 A の CS を受け、教えていただいたものを次の世代に還元したいと思ったから。

② TA/SA に関する活動で印象に残っている出来事

授業をオンデマンドで行うにあたって、どのように動画を撮影すればいいか4時間近くかけて様々な方法を試したこと。

③ TA/SA を経験して変化したこと,成長できたこと

SA を経験することで他人の立場に立って物事を考えるようになりました。今までは自分のことだけを考えていればよかったのですが、どのようにしたら統計学が苦手な人にもわかりやすい授業をお届けすることができるのかなどを同じ SA の S 君と話し合い、協議を重ねました。最後の最後まで試行錯誤の連続で今でもベストな方法は見つけれませんでした。1 週間目に比べるとより良い方法で行う事が出来たと自負しています。

④ TA/SA になってみようと思っている学生へのメッセージ

少しでも興味を持ったらやってみるといいと思います。何事もまずは挑戦することが大事です。後悔するならやらずに後悔するよりやって後悔したほうがいいと私は考えています。生徒の単位を左右するような責任はありますが、その責任感が自分を成長させてくれると思います。

⑤ 担当教員や TA/SA 仲間へのメッセージ

右も左もわからない私を何から何まで助けていただきありがとうございました。

S・H (コアセッション 統計学 A)

① TA/SAをやってみようと思ったきっかけ

一回生の統計学の授業を受けたときに、統計学を教えられてる先輩方の姿をみて自分も統計学を教えてみたいと思ったからです。

② TA/SAに関連する活動で印象に残っている出来事

特定の出来事ではなく今回の活動を振りかえってという話になってしまいますが、今回はオンラインでの実施だったので、授業の準備に思っていた以上に時間がかかったということが印象に残っています。単純に講義資料を作るだけならそれほど時間はかからなかったのですが、動画を撮影するのに思っていた以上に時間がかかってしまい、当初思っていたようにスムーズに運営することができませんでした。

③ TA/SAを経験して変化したこと、成長できたこと

人に何かを教える経験があまりなかったので、最初の方はどのように授業を作ればいいのか全く分かりませんでした。自分の知識を相手にわかりやすく伝えるというのは思っていた以上に難しく、最初はかなり頭を悩ませました。しかし、実際に授業をやっていくことを通して、人に知識を伝える経験を積むことができ、少しだけその要領をつかめたような気がします。

またその過程であやふやだった知識を整理することができ、統計学に関してより深く学べたような気がします。

④ TA/SAになってみようと思っている学生へのメッセージ

学ぶことと教えることとでは必要となる能力が異なるので、初めはいろいろと混乱するかもしれません。また今はコロナ禍ということもあり運営するにあたってはかなり困難が生じるかとは思いますが、先生や他の SA と協力すればスムーズにコアセッションを運営することができると思います。

大学で学んだことを講義を通して誰かに教えるというのは滅多にできる経験ではないので、TA/SA の活動を通して得られる経験は必ず将来につながる力になると思います。

⑤ 担当教員やTA/SA仲間へのメッセージ

今学期がオンラインでのコアセッション運営だったので、普段の講義とはまた違った能力が求められたような気がします。そのため、当初思い描いていたようにスムーズに運営することができませんでした。そんな中で一緒に講義を運営してくださった先生や他の SA の方には感謝しかないです。ありがとうございました。



得田先生（コアセッション統計学 A）



◆今期 TA/SA へのメッセージ◆

T さん、S さん、K さん

コロナで大変な時期にもかかわらず、セッション運営に進んで協力いただいたこと、大変感謝しています。

今学期は教員・SA とともに手探りの運営でした。オンライン教材の作成負担が重いことは重々承知していましたが、セッション開始数日前になっても動画ファイルが上がってこなくヤキモキすることもありました。

しかし結果は一度も納期？に遅れることなく、指示通りのモノを提供してくれました。優れたパートナーとビジネスができたようで嬉しく思います。



井手先生（コアセッション ミクロ経済学 B）



◆今期 TA/SA へのメッセージ◆

2004年のコア科目の導入以降、長い間、コアセッションの授業はSAのチームが担当してきましたが、今学期のコアセッション（ミクロ経済学B）は、前学期での試行錯誤を踏まえて、教員自身が対面で講義し、SA（1名）にはオンラインでの質問対応をお願いしました。

この配置は感染症リスクの軽減を意図したものです。これまでのデータを見る限り、20歳前後の若者への感染症の客観的リスクは大したことがないようですが、世人の抱く恐怖感は別の話です。SAが対面で学生と接することで学内にクラスターが生まれることは極力、回避すべきですし、諸事情により対面を避けたい人にとっても有益であるように、独習用の解答付き問題集をサルムスで公開するとともに、SAによるオンラインの質問対応を配置しました。

基本、週に二回、SAによる質問対応を実施しましたが、残念ながら利用者は多くはなかったようです。今年度の受講生は全般的に質問が少ない印象ですが、教室でのSAによる解説がなかったため受講生とSAとの距離が縮まらず、質問のきっかけが掴みにくかったのかもしれない。

今後、ワクチン接種の拡大とともに、感染症の客観的リスクも恐怖感もさらに引き下げられ、平時に近づいていくと考えられます。

近い将来、ミクロ経済学の複数のSAによるSAチームが再建させ、SAによる対面授業が復活し、今学期、この科目の唯一のSAであったM・Y君の尽力により繋がれたミクロ経済学のSAの伝統が、末永く継承されていくことを期待しています。オンラインでの活動の何を引き継ぐのか、講義資料とともに問題集をどのように活用していくのか、など課題は多いですが、様々な実験を踏まえて、新たな展開の選択肢も広がっているように思われます。